

「働き方改革による生産性向上に大きな効果が期待される ソフトウェア・ロボット” RPA(Robotic Process Automation)”」

- 労働力人口の減少と「働き方改革による生産性向上」の社会的課題
- 「働き方改革による生産性向上」の課題解決に資する技術的展望
- RPAとは ● RPAの歴史と事例 ● 今、なぜRPAが脚光を浴びているのか？
- AIによる「生産性向上」に対する期待
- RPAとAIや機械学習との連携の現状と今後の可能性

(座長 —— 総合司会) 東京大学 名誉教授

齊藤 忠夫 氏

講師 (株)野村総合研究所 未来創発センター長

桑津 浩太郎 氏

NTTコミュニケーションズ株式会社 アプリケーション&コンテンツサービス部 AI推進室

室長 三竹 保宏 氏

(株)NTTデータ 第二公共事業本部 第四公共事業部 第二統括部 RPAソリューション担当 課長

中川 拓也 氏

(講演順)

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-10 秀和青山レジデンス 409 TEL 03(3498)0911(代) FAX 03(3498)0909

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになってきている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信(機械と機械の通信)と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になる。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 757 — 」開催内容
(主催)マルチメディア推進フォーラム
テーマ 「働き方改革による生産性向上に大きな効果が期待される
ソフトウェア・ロボット” RPA(Robotics Process Automation)” 」

日 時 平成 30年 4月 12日 (木) 13時00分～17時00分

時間	講演内容	講師
	<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none">●労働力人口の減少と「働き方改革による生産性向上」の社会的課題●「働き方改革による生産性向上」の課題解決に資する技術的展望●RPAとは●RPAの歴史と事例●今、なぜRPAが脚光を浴びているのか？●AIによる「生産性向上」に対する期待●RPAとAIや機械学習との連携の現状と今後の可能性	
	<p>総務省によれば、日本の生産年齢人口は、2015年の約7,600万人から2030年には約6,800万人と、800万人、率にして10%以上が減少すると見込まれている。</p> <p>現在でも、運輸、流通、外食産業等で労働力不足が顕著となり、宅配便の値上げや営業時間の短縮、業態の見直し等の影響が出始めている。</p> <p>また、「少子高齢化」、「過重労働」、「ワークライフ・バランス」といった日本が抱える社会的課題の中で「働き方改革による生産性向上」が昨今の新聞記事や雑誌記事でも大きな話題となっており、その解決に期待が高まってきている。</p> <p>他方、2014年に英国オックスフォード大学の「雇用の未来」において「今後10年間で米国の雇用者の47%がコンピュータにより自動化される」との予測が発表され、米国のみならず日本の産業界や経済社会に大きなインパクトを与えた。</p> <p>コンピュータによる「業務の自動化・効率化」は、そもそもは「汎用コンピュータ」が開発されてきた最も大きな「社会的ニーズ」のひとつであり、様々な産業の中で活用されながらコンピュータ自身も発展してきた歴史がある。</p> <p>そのような中で、現在、RPA(Robotics Process Automation)と呼ぶ技術が大きな注目を浴びている。RPAの歴史は比較的長く、例えば、2011年にはNTT研究所がUMS(Unified Management Support System)と名づけた「端末操作自動化ツール」があり、ネットワークの膨大な回線開通設定業務などに活用されている。</p> <p>RPAという名称が使われ始めたのはここ数年であり、市場では複数の「RPAツール」も出てきており、特に「働き方改革」による生産性向上のために導入される事例が出てきている。</p> <p>例えば、「膨大な量の伝票を入力」したり、「アプリケーションの出力データを別のアプリケーションに入力」するなど、定型的で反復的な端末業務処理で活用されている。このような使い方では、システム上のアプリケーションを改修する必要はなく、端末側で処理できることから、比較的簡単に、かつ、低コストで実現できる。また、膨大な「繰り返し」となる単純作業から作業従事者を開放し、かつ、長時間にわたってミスなく作業を代行できる利点がある。このため、RPAは「ソフトウェアによるロボット」と表現される場合もある。</p> <p>現在のRPAでは、人手による作業をあらかじめ実行させるプロセスを定義しておく必要があるが、画像認識や文字認識技術と組み合わせることでデータの入力を効率化するケースもある。今後は、更に、機械学習や認知科学等のAI技術と連携させることにより、より高度な業務プロセスを自動化できる可能性も注目され始めている。</p> <p>本フォーラムでは、RPAの現状とその導入事例とその効果を理解し、今後AI技術との連携による発展と社会へのインパクトなどについて幅広い視点で解説し議論を深めていきます。</p>	
	<p>(座長-総合司会)</p> <p>東京大学 名誉教授 齊藤 忠夫</p>	

13:00 ～ 13:30	<p>(基調講演) 「RPAの現状とAI技術の連携の可能性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●労働力人口の減少と「働き方改革による生産性向上」の社会的課題 ●「働き方改革による生産性向上」の課題解決に資する技術的展望 ●RPAの現状動向 ●RPAとAIの連携による「生産性向上」に対する期待 	質疑応答	齊藤 忠夫氏 東京大学 名誉教授
13:30 ～ 14:45	<p>「働き方改革による生産性向上への社会的課題の解決」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●働き方改革が求められる社会的背景 ●働き方改革の処方箋 ●RPA、及び、AI技術による働き方改革の解決の見通し 	質疑応答	桑津 浩太郎氏 (株)野村総合研究所 未来創発センター 長
(休憩／意見交換／名刺交換) (14:45～14:55)			
14:55 ～ 15:55	<p>「NTTコミュニケーションズにおけるRPAへの取り組み」 ～日本語理解AIエンジンCOTOHAとRPAを連携～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本語理解AI、COTOHA®とRPAの連携ソリューション ●NTTコミュニケーションズにおける適用事例 ●AI技術等との連携による発展の将来展望 	質疑応答	三竹 保宏氏 NTTコミュニケーションズ株式会社 アプリケーション &コンテンツサー ビス部 AI推進室 室長
(休憩／意見交換／名刺交換) (15:55～16:00)			
16:00 ～ 17:00	<p>「NTTデータによるRPAへの取り組み」～300以上の企業への実績～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NTTデータによるRPAの動向 ●豊富なRPA導入事例の紹介 ●RPAのデモンストレーション 	質疑応答	中川 拓也氏 (株)NTTデータ 第二公共事業本部 第四公共事業部 第二統括部 RPAソリューション 担当 課長

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

今後の開催予定

開催月	時間	テーマ
H30.4	13時～17時	「IoT・ビッグデータのマイニングによる新たな価値創造」 (=マルチメディア推進フォーラム-PART***)

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

(運営諮問委員会幹事)

代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授

副代表幹事
服部 武 上智大学 理工学部 客員教授
森川 博之 東京大学 先端科学技術研究センター 教授

幹事

鈴木 茂樹 総務省 総務審議官
秋本 芳徳 総務省 企画課長
間宮 淑夫 内閣官房副長官補付 文化経済戦略 特別チーム
西尾 崇 国土交通省 道路局 高度道路交通システム (ITS) 推進室長
立川 敬二 ㈱ハイテクノロジー推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

有富寛一郎 全国地域情報推進協会 理事長
片山 泰祥 情報通信ネットワーク産業協会 専務理事
春口 篤 日本放送協会 技術局長
篠原 弘道 日本電信電話㈱ 代表取締役副社長
井伊 基之 東日本電信電話㈱ 代表取締役副社長
森下 俊三 西日本電信電話㈱ シニアアドバイザー
加藤 薫 ㈱NTTドコモ 相談役
船橋 哲也 NTTコミュニケーションズ㈱ 代表取締役副社長
木村 文治 NTTアドバンステクノロジー㈱ 代表取締役社長
海野 忍 NTTコムウェア㈱ 代表取締役社長
藤本 秀雄 ㈱エヌ・ティ・ティ エムイー 代表取締役社長
植木 英次 ㈱NTTデータ 代表取締役副社長執行役員
安田 豊 公益財団法人KDDI財団 理事長
渡辺 文夫 ㈱KDDI総合研究所 代表取締役会長

内田 義昭 KDDI㈱
宮川 潤一 ソフトバンク㈱
石原 直 東京大学大学院
浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所
遠藤 信博 日本電気㈱
新野 隆 日本電気㈱
手島俊一郎 日本電気㈱
松本 端午 富士通㈱

成宮 憲一 富士通㈱
大槻 次郎 ㈱富士通研究所
小野 蒼生 ㈱日立製作所
伊藤 明男 ㈱日立国際電気
川崎 秀一 沖電気工業㈱
ジ・エシ・ジョン・ウォン ㈱アパリアレーション&ネットワークズ

取締役執行役員専務
取締役専務 兼 CTO
工学系研究科 特任教授
代表取締役社長
代表取締役会長
代表取締役 執行役員社長 兼 CTO
顧問
執行役員常務
デジタルサービス部門 副部長
社会基盤ビジネス本部 顧問
常務取締役
執行役員
執行役専務
代表取締役会長
代表取締役社長

(主な設立発起人)

齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授
吉川 弘之 東京大学 元 総長
立川 敬二 ㈱ハイテクノロジー推進研究所 取締役・特別顧問
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)
杉本 榮一 自由民主党 元 政務調査会 調査役

(最高顧問)

甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

マルチメディア推進フォーラム - PART757 - 開催

●日時 平成 30年 4月 12日 (木) 13時00分~17時00分

●会場 アイビーホール 青学会館

〒150-0002 渋谷区渋谷4-4-25 TEL 03-3409-8181(代)

- 受講料** ¥49,710.- (受講者1名交替可) 資料・コーヒー・消費税を含む
- 申込先** 事務局 **ハイテクノロジー推進研究所** TEL (03)-3498-0911
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-10 秀和青山レジデンス 409 FAX (03)-3498-0909
E-mail hightech@ahri.co.jp
- 申込方法** 申込書に所定の事項をご記入の上、**FAX又は、Web上**
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。
- 送金方法** 銀行振込 **みずほ銀行 渋谷中央支店** 1554932 (普)
三菱東京UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普)
※送金が開催日以降による場合は予めご連絡下さい。
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。
- キャンセル** フォーラム開催前、4月5日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は代理の方の出席か当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。
- 申込書について** ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。



●地下鉄 銀座線・千代田線・半蔵門線
表参道駅下車(青山学院方面出口)
B1出口・B3出口より徒歩5分

●都営バス 渋谷駅前 ↔ 新橋駅北口
(※88) 南青山5丁目 下車

<http://www.aogaku-kaikan.co/jp>

「マルチメディア推進フォーラム - PART757 - 申込書

(申込日) 月 日

会社名	TEL () -		FAX () -	E-mail:
会社住所	〒			
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名(ふりがな)		
支払方法	●銀行振込 () 銀行 日振込予定	通信欄	請求書-要・不要	
	●年 月			

きりとり線